

分科会意見への対応表 総合計画審議会 第1分科会

分科会意見シートに分科会委員より要望や意見等があった項目について記載しています。各論のレイアウトに記載するにあたり、対応の可否について検討いただき、検討結果について記載をお願いします。

No.	意見・指摘内容	対応
【全施策共通】		
-	【全体】 ・施策目標、代表指標、現状・主な課題、施策の展開方向のストーリー性・連動性を改めて確認。	
-	【施策目標】 ・原則分野別マスタープランを参考。(表現は必ずしも完全一致でなくても可)	
-	【代表指標】 ・施策全体の進捗を測る視点の再確認。全体的に定性的な指標に偏りがあるため、定量的な指標との組み合わせなども検討が必要。	
-	【現状・課題(共通)】 ・極力、簡潔な文章で記載方法を見直し。	
-	【現状】 ・現状に課題の内容が入っている部分が見受けられるため、現状と課題を書き分けるよう再検討。 ・本市特有の現状や、これまでの取組による成果についてを記載。	
-	【課題】 ・課題と展開方向の記載内容が重複しているため、課題と展開方向を明確に書き分けるよう再検討。 ・語尾は原則「課題」で統一。	
-	【展開方向名】 ・取組の方向性がわかるような表現に統一。名称のみの記載ではなく、「●●の推進」「●●の充実」など。	
-	【展開方向の取組内容】 ・具体的にどのような取組を行っていくのかわかるよう、方向性や取組例などで修飾し表現することを検討。 例えば「●●を柱とした」、「●●の展開など」	
【施策名】施策1 地域コミュニティ・学び(全体)		
1	・代表指標の1つ目で、「身近な地域活動」をどう定義するのか。その定義を示したうえで、指標とすべき。(川中委員)	まちづくりに関する意識調査を実施する際には、「地域活動」の例として、「社会福祉協議会や自治会活動、防犯・防災活動や交通安全活動、地域の美化・緑化活動、子育て支援(育児サークル、子どもの見守り、子ども会等)」と示しているため、「用語解説」において同様の記載を行います。
2	・代表指標の2つ目で、何が測れるのかがわかりにくい。工夫が必要ではないか。学んだ人が現場でどう活動しているかという視点で表現したほうがよいのではないか。(小森委員、川中委員)	指標の意図が分かりやすいように表現を変更しました。なお、今回設定した指標については、①の「身近な地域活動に参加している市民の割合」のパーセンテージが上がれば、市民活動をしている市民の数が増えているということになり、定量指標の要素も包含しているものと認識しています。
3	・現状・課題の中で、地域の担い手不足などの課題について記載したほうがよいのではないか。(川中委員)	ご指摘を踏まえ、「主な課題」の1つ目を追加しました。
4	・地域コミュニティはすべての分野の基礎となるので、尼崎市の特長として、生涯、学習！推進課に触れつつ、「地域コミュニティの強化は全ての分野の基礎を作っていく」というような記載はできないか。(久分科会長)	総合計画は5年先・10年先を見据えるものなので、今後組織改正によって名称変更が生じる課名それ自体については使用しないこととしましたが、その他の要素については、「主な課題」の2つ目に追記を行いました。
5	・文化だけ若者支援をするように映るので、見せ方を検討してほしい。(原田委員)	展開方向④「スポーツに親しむ機会の充実」において「子どものスポーツ機会の充実による体力・運動能力の向上に資する取組」を掲げるなど、文化以外の分野においても若者支援の考え方を盛り込んでいます。なお、「若い人の夢とチャレンジを応援する」という文言は、文化行政における分野別計画「文化ビジョン」中、「取組の柱」で用いられているものです。

No.	意見・指摘内容	対応
【施策名】施策1 地域コミュニティ・学び(展開方向1)		
6	・展開方向の取組のなかに、みんなの尼崎大学にふれるべきではないか。展開方向の中の●2つ目で表現を工夫してほしい。(古川委員、久分科会長)	冒頭に、「まちじゅうが学びの場になる」というコンセプトを追記しました。
7	・学校教育と社会教育の連携の記載はもう少し具体的に表現するべきではないか。一人の人間として生涯学び続けていくという視点で表現の工夫をしてほしい。(堀田委員、久分科会長)	各論レイアウトの「施策の展開方向」における表現を「生涯学習を支援し、学びの成果を活かした学校教育と社会教育の連携の推進」としています。
8	・高等教育の拠点など地域資源を活かした協働の視点を盛り込むなど、大学の地域の連携・協働をイメージできる表現にした方がよいのではないかと。(川中委員)	本施策に掲げる「学び」は、学校教育に限らず広義のものを指しており、大学のみならず焦点を当てた記載にする考えはありません。なお、協働の視点は主に「行政運営」パートにおいて記載しておりますが、協働の相手方には当然に大学等も含まれており、既に市内外のいくつかの大学とは包括連携協定を締結して、個々に協働の取組を進めているところです。
【施策名】施策1 地域コミュニティ・学び(展開方向3)		
9	・まちづくりの基礎として、歴史を知り、歴史資産を活用しながらまちづくりを展開するというように、表現をまちづくり全体につながるようにしてほしい。(久分科会長)	ご意見を踏まえ、各論レイアウトの「主な課題」に、「…これからのまちづくりの糧とできるよう、歴史遺産の継承と市民の学びや活動を支える環境づくりが課題…」という文言を加えています。
10	・「市民とともに歩む博物館」という表現では、博物館の運営に市民が関わっていくと捉えられるので、「博物館を核としながら市民活動やまちづくりに広がっていく」というような記載にできないかと。(久分科会長)	ご意見を踏まえ、各論レイアウトの「主な課題」に、「…歴史遺産の継承と市民の学びや活動を支える環境づくりが課題…」という文言を加えるとともに、「5 施策の展開方向」における表現を「地域の歴史を学び、活動する市民を支える取組」としています。
11	・地域の伝統や公害を克服してきた歴史などを含め、多様な広がりを持てるよう表現の工夫をお願いしたい。(中西委員、久分科会長)	ご意見を踏まえ、各論レイアウトの「主な課題」に、「尼崎の豊かな歴史や近現代の都市課題に向き合ってきた知恵や経験を市民が学び、…」という文言を加えています。
【施策名】施策2 人権尊重・多文化共生(全体)		
12	・課題の2点目で「人権を～『大切な』条件として、」という表現があるが、「不可欠」という言葉を使うなど、より重要性を増した表現にしてほしい。(中西委員)	ご意見を受け、「主な課題」の2つめを『人間らしく生きるために誰からも侵害されることのない普遍的な権利として、人権に関心を持ち学び続けるための動機づけや機会の提供が課題。』へ変更します。
13	・外国籍の方への対策を現状・課題に盛り込んでほしい。(青田委員)	ご意見を受け、本市における外国籍住民に関する現状と課題を記載します。
14	・展開方向(●部分)が包含的な書きぶりなので、もう少し具体的に表現を工夫してほしい。(久分科会長)	ご意見を受け、展開方向に具体性を持たせた記載に修正します。
15	・現状の4つ目で、「子どもを取り巻く環境は厳しい状況にある」という表現は必要ないのではないかと。(原田委員)	ご意見を受け、当該文言を削除の上、『子どもの人権に関する』という文言を追記します。
16	・施策目標について、消極的な表現になっており、高い水準で人権保障について捉えるという観点で記載したほうがよいのではないかと。(川中委員)	ご意見を受け、「1 施策目標」を、『誰もが人権侵害を受けず、権利を行使できる主体として認められるまち、互いに多様性を認め合い、日々の暮らしの中で尊重されていると実感できるまちをめざします。』へ変更します。
17	・ジェンダー不平等について表現すべき。また、ジェンダーと性の多様性は切り分けて表現すべき。(川中委員)	現状については、性的マイノリティのみの記載に偏っていたことから、ジェンダー問題についても追記しました。ただ、性的マイノリティの課題の背景にはジェンダー問題がありともに進めていく課題であることから、課題及び展開方向については、一文の中で性的マイノリティとジェンダーについて盛り込みます。
18	・展開方向ごとにみると、個人の学習と意識啓発が主に記載されていると感じるので、もっと社会環境整備の視点を記載すべきではないかと。(川中委員)	ご意見を受け、展開方向に社会環境整備の視点を意識した具体的な取組について、盛り込みます。
19	・記載内容が人権の内容に偏っており、施策名からも多文化共生の内容をもっと記載すべきではないかと。(久分科会長)	ご意見を受け、全体的に多文化共生に関する記載を追記します。

No.	意見・指摘内容	対応
【施策名】施策2 人権尊重・多文化共生(展開方向1)		
20	・「地域」というなかに事業者も含まれるとのことだが、読み取りにくい。事業者数の多い尼崎ならではの表現となるよう工夫してほしい。(久分科会長)	・「地域」という表現には市民や市内事業者も包含しておりますので、原案どおりとします。
【施策名】施策2 人権尊重・多文化共生(展開方向3)		
21	・学校園における人権教育では、人権教育だけの問題ではなく、多文化共生の観点から外国籍の方への教育環境の整備も必要ではないか。また、そもそも学校園自体が人権保障をできているかどうかという視点も含めて記載すべきではないか。(久分科会長、川中委員)	現状、学校園において、日本語指導や言語の障壁によるケアが必要な子どもに対しては、子女の母語を理解できる多文化共生支援員(市費)や多文化共生サポーター(県費)を派遣し、学習面・生活面での指導や保護者への通訳を行うなど、多文化共生の教育に取り組む環境を整えているところであり、「現状」の部分にその意図を反映させております。
【施策名】施策3 学校教育(全体)		
22	・代表指標で、「他者と協働しながら」に対する指標になっていないので、そこを受ける指標が必要になるのでは。(堀田委員)	ご意見を踏まえ、代表指標②を「『困難や課題に対し、他者と協働して解決に向けて取り組んでいる』と答えた児童生徒の割合」としています。
23	・代表指標②について、行動レベルの指標が望ましいのではないかと。(川中委員)	
24	・代表指標について、高校生の進捗状況を測れるものもあつたほうが良いのではないかと。(川中委員)	小・中学校から高等学校を一貫した調査手段がないため、代表指標としての設定はできませんが、毎年度の施策評価等を通じて高等学校の取組の成果を確認し、進捗管理を回していきたいです。
25	・教員の働き方改革を進めるには、①教員の本来業務に注力すること②効果的・効率的に業務を行うことへの対応が必要であると考えており、現在の書きぶりでは抽象度が高いので、方向性や取組が分かるようにもう少し具体的な記載をお願いしたい。(久分科会長、古川委員)	ご意見を踏まえ、各論レイアウトの「5 施策の展開方向 ④良好な教育環境の確保」における表現を「教員が児童生徒と向き合う時間を確保するための働き方改革の推進」としています。
26	・代表指標に記載のあるとおり、尼崎市として学力が課題であるという認識があるということなので、現状・課題のところに記載すべきではないかと。(小森委員)	ご意見を踏まえ、各論レイアウトの「主な課題」における表現を「学力や学習環境の面で着実に改善が進んでいるものの、全体として全国学力・学習状況調査の結果が全国平均値を上回ることができていない。」としています。
【施策名】施策3 学校教育(展開方向4)		
27	・ICT活用の推進は、学校現場だけではないので、限定しない方が良いのではないかと。(堀田委員)	ご意見を踏まえ、各論レイアウトの「5 施策の展開方向」における表現を「ICT環境の整備及びICT活用促進等によるGIGAスクール構想の推進」としています。